

お み た 磯部の御神田 重要無形民俗文化財

【伊雑宮御田植祭 式次第】

毎年六月二十四日

○ 八時十分頃

杓・田道人役は「七度半」の使いにたづ

○ 九時五十分頃

「式二番」を納める。

○ 十時二十分頃

伊雑宮一ノ鳥居内に整列し、修夜をつける。

○ 十時三十分頃

御止殿に参拝する。

修夜所にて神官より作長が早苗を授かる。

○ 十時四十分頃

御料田に参進する。

○ 十二時頃

御料田に参着する。

作長は左 右 中と早苗を奉下する。

早乙女 田道人らは苗代を二周半して早苗を取る。

竹取神事に出る裸男は御料田に入り、苗取りが済むのを待つ。

○ 十二時二十分頃

「竹取りの神事」。

○ 十二時三十分頃

「御田植の神事」。

小謡二番から九番が済むと中休みとなり、奉仕者は袴の引張着で酒宴をする。

次いでおくわか、さいわかによる「刺鳥差」の舞

続いて小謡十番から十八番で御田植が終わる。十二時頃終了。

○ 十五時頃

「踊込み」。御料田から約 時間かけて伊雑宮一ノ鳥居まで練る。

○ 十七時頃

役人一同一ノ鳥居内に整列し、太鼓 鼈の三人が

「千秋楽の仕舞」を行い、御田植祭はめでたく終了する。

『磯部の御神田』（磯部町教育委員会発行）より抜粋

当番地区により多少時間が異なる場合がございます。

磯部の御神田奉仕会

「伊雑宮御田植祭」

のあれこれ

国指定の重要無形民俗文化財「磯部の御神田」はその昔より、千葉県香取神宮、大阪の住吉大社と共に日本の三大御田植祭の一つに数えられております。

御田植祭の縁起

これは踊込み唄に「昔真名鶴磯部の千田に稲穂落としたそのまつり」とあるように、磯部の「鶴の穂落し」の故事によるものです。遙かその昔より行われているものですが、現在の姿になったのは、平安時代の末頃から鎌倉時代のはじめ頃といわれております。

御田植祭の期日

毎年六月二十四日に行われます。当日は如何なる雨や風が吹いても中止されることはありません。戦時中の空襲の最中においても行われておりました。

御田植祭の奉仕

これは昔から「磯部九郷」と呼ばれていた土地の人々が地区を挙げて奉仕します。一部の地区では二地区が連合し、奉仕を行いますので、七年に一回廻ってきます。その順序は

上之郷 → 沓掛 → 下之郷 → 穴川 → 迫間 → 築地 → 恵利原
五知 → 山田

地区となっております。

御田植祭の諸役人

太鼓 一人、鼈 二人、早乙女 六人、大鼓 一人、小鼓 一人、
謡 六人、笛 二人、杵 二人、田道人(立人) 六人、警護 一人